

- 問1 周防国（現在の山口県）から「海塩二斗」を都へ送ったことを示す「木簡」が発見されているように、地方の特産品を徴収した律令制の仕組みについて述べた文として、正しいものはどれですか。（2024年 福井県公立入試 類似）
- 都での労働の代わりに、布を納めることで免除される税であった。
 - 各地の特産品を、納税者が自ら都まで運搬して納める義務であった。
 - 地方で年間60日を限度に、土木工事などの労働に従事する義務であった。
 - 収穫した稲の約3%を、地方の国衙にある倉庫に納めた。
- 問2 710年に現在の奈良県に遷都された平城京は、当時の東アジアにおいて強大な影響力を持っていたある国の都をモデルに設計されました。そのモデルとなった国の名前と、都の名称の正しい組み合わせを選びなさい。（2024年 岐阜県公立入試 類似）
- 唐の長安
 - 隋の長安
 - 唐の洛陽
 - 隋の大興城
- 問3 8世紀の日本において、聖武天皇が国分寺建立の詔（みことのり）や大仏造立の詔を出した歴史的背景と目的を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 岡山県公立入試 類似）
- 日本古来の神々と仏教を一体とする考え方を広めることで、地方の豪族が持つ独自の宗教的権威を否定するため。
 - 寺院に国民の戸籍を管理させる制度を整えることで、税の徴収を確実にし、幕府の財政基盤を強固にするため。
 - 戦乱で亡くなった多くの武士や民衆を供養し、極楽往生を願う念仏の教えを全国の農民に普及させるため。
 - 感染症の蔓延や貴族の反乱による社会の動揺を、仏教の教えに基づいた国家的な祈りによって鎮め、国を安定させるため。
- 問4 日本と大陸の交流の変遷をまとめた記録において、894年に菅原道真が使節の派遣停止を建議した理由と、その後の文化への影響として正しいものはどれですか。（2025年 和歌山県公立入試 類似）
- 明との貿易において勘合符の使用が義務付けられたため派遣を中止し、禅宗の影響を受けた東山文化が栄えた。
 - 隋の滅亡による混乱を避けるために派遣を中止し、貴族を中心とした大陸風の文化がさらに強まった。
 - 唐の衰退や航路の危険を理由に派遣を中止し、その後の日本で独自の国風文化が発達する契機となった。
 - 元軍の侵攻によって交流が断絶されたため派遣を中止し、武士の精神を重んじる鎌倉文化が成立した。
- 問5 律令制度のもと、主に東国（現在の関東地方など）から徴用され、九州北部の沿岸を警備する任務についた兵士を何と呼びますか。彼らは白村江の戦いでの敗北後、唐や新羅からの侵攻に備えるために配置されました。（2020年 滋賀県公立入試 類似）
- 防人
 - 衛士
 - 健児
 - 検非違使
- 問6 743年に「墾田永年私財法」が施行されたことにより、その後の日本の社会に現れた大きな変化として正しいものはどれか。（2024年 静岡県公立入試 類似）
- 天皇による直接支配が全国の隅々まで行き渡り、武士という新しい階級が登場する余地がなくなった。
 - 経済力を持つ貴族や寺院が大規模な開墾を行い、のちに「荘園」と呼ばれる私有地が広がる原因となった。
 - 土地の私有化が進んだ結果、米で納める「租」の制度が廃止され、全ての税が貨幣で納められるようになった。
 - 班田収授の法がより厳格に守られるようになり、農民の間の貧富の差が完全に解消された。
- 問7 奈良時代、律令国家としての体制が整う中で、『古事記』や『日本書紀』が編纂された主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 埼玉県公立入試 類似）
- 防人や貴族など、幅広い身分の人々が詠んだ和歌を収集し、文化を保存するため
 - 仏教による鎮護国家の思想を広め、社会の不安や疫病を鎮めるため
 - 地方の産物や地理、伝承などを記録して、中央政府が地方の実態を把握するため
 - 日本の国のおこりや、天皇が国を治めることの正当な由来を明らかにするため
- 問8 島根県の伝統芸能である石見神楽には、ヤマタノオロチ退治などの演目があります。これらの演目の題材となっている日本神話が記された、奈良時代に成立した歴史書はどれか。（2020年 島根県公立入試 類似）
- 古事記
 - 懐風藻
 - 日本書紀
 - 万葉集
- 問9 律令制における税の仕組みについて、都での労役の代わりとして布を納める「庸」の説明として、最も適切なものはどれですか。（2016年 鹿児島県公立入試 類似）
- 口分田の面積に応じて、収穫した稲の約3%を地方の倉庫へ納める負担。
 - 都での労役の代わりに布を納め、主に都での役人の食糧や経費に充てられた負担。
 - 各地の絹や布、糸、海産物などの特産物を都まで運んで納める負担。
 - 国司の命令により、地方での土木工事などのために年間60日以内働く負担。
- 問10 聖武天皇が東大寺の大仏を造立した背景や当時の社会状況について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2018年 三重県公立入試 類似）
- 国家の力だけで建設を進めるため、行基などの僧侶が民衆に協力を呼びかけることは禁止された。
 - この大仏は、運慶や快慶などの彫刻家を中心となって、武士の気風を反映して造られた。
 - 大仏の建立は、紫式部が源氏物語を執筆し、国風文化が全盛を迎えた時期に行われた。
 - 天皇は、全国に国分寺・国分尼寺を建立することを命じ、東大寺をその中心に据えた。
- 問11 奈良時代にまとめられた日本最古の歴史書の一つで、日本神話を題材とした内容が記されている書物を次の中から選びなさい。（2020年 島根県公立入試 類似）
- 日本書紀
 - 風土記
 - 古事記
 - 万葉集
- 問12 奈良時代の文化が、のちの平安時代に栄えた「国風文化」と比較して「国際色豊かな文化」と評される最大の要因は何か。（2016年 長野県公立入試 類似）
- 遣唐使が唐の都である長安の国際的な文化や、西アジア、インドなどから伝わった文物を日本へ持ち帰ったから。
 - 独自の文字である「かな文字」が考案されたことで、日本の風土に合った文学作品が数多く生まれたから。
 - 幕府がキリスト教を禁止し、出島を通じたオランダや中国との貿易のみを許可する政策をとったから。
 - 平氏による日宋貿易が盛んになり、中国から宋銭や陶磁器が大量に流入して庶民の生活を変えたから。
- 問13 東大寺の正倉院には、ペルシャ風の文様が施された水差しや、熱帯地方を原産とする木材を用いた楽器など、アジア各地との交流を物語る品々が数多く納められています。このような、遣唐使などを通じて異国の文化を積極的に取り入れた天平文化の特色を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2015年 富山県公立入試 類似）
- 平安貴族の生活に基づいた、日本独自の国風文化
 - 唐の影響を強く受けた、国際色豊かな文化
 - 町人の経済力を背景とした、華やかな元禄文化
 - 禅宗の影響を受けた、簡素で力強い武家文化

答え合わせ・解説

問1	答え 2 各地の特産品を、納税者が自ら都まで運搬して納める義務であった。	発掘された木簡には、どの地域からどのような特産品が送られたかの記録が記されており、当時の徴税の実態を裏付ける資料となっています。調は、納める品物だけでなく、それを都まで運ぶ運搬の負担も民衆に課せられていた点が特徴です。
問2	答え 1 唐の長安	平城京は、元明天皇の時代の710年に、それまでの藤原京から遷都して造営されました。この都は、当時、東アジアの政治・文化の中心として栄えていた唐の都である「長安」をモデルとして設計されており、碁盤の目のように区切られた整然とした街並みが特徴です。当時の日本は遣唐使を派遣し、大陸の進んだ制度や文化を積極的に取り入れていました。
問3	答え 4 感染症の蔓延や貴族の反乱による社会の動揺を、仏教の教えに基づいた国家的な祈りによって鎮め、国を安定させるため。	聖武天皇の治世では、天然痘の流行による人口減少や、藤原広嗣の乱といった政治的混乱が相次ぎました。天皇はこうした災厄を仏教の加護によって取り除こうと考え、鎮護国家の思想の下で大規模な仏教施設の整備を行いました。檀家制度は江戸時代、浄土信仰の普及は平安時代末期以降の動きであるため、奈良時代の背景としては不適切です。
問4	答え 3 唐の衰退や航路の危険を理由に派遣を中止し、その後の日本で独自の国風文化が発達する契機となった。	9世紀末の唐は黄巢の乱などで国内が乱れており、命をかけて渡海する見返りが少なくなったことが中止の背景にあります。公的な使節の派遣が途絶えたことで、それまで取り入れた大陸文化を日本の風土や感性に合わせる動きが強まり、ひらがなや寝殿造に代表される国風文化が花開きました。
問5	答え 1 防人	白村江の戦い（663年）で唐・新羅の連合軍に敗れた倭（日本）は、対外的な緊張が高まったことから、九州北部の防衛を強化しました。その際に配置されたのが防人です。主に東國の農民が選ばれましたが、現地までの旅費や武器は自己負担であり、さらに3年間の任期中は農業に従事できないなど、民衆にとって極めて重い負担となっていました。
問6	答え 2 経済力を持つ貴族や寺院が大規模な開墾を行い、のちに「荘園」と呼ばれる私有地が広がる原因となった。	土地の私有が認められたことで、豊富な資金や労働力を動員できる有力な貴族や寺院がこぞって開墾を進めました。これが「初期荘園」の形成につながり、国家が直接土地と人民を支配する体制が徐々に形骸化していくことになりました。
問7	答え 4 日本の国のおこりや、天皇が国を治めることの正当な由来を明らかにするため	律令制度によって国家の仕組みが整えられたこの時期、国内外に対して日本の成り立ちや、天皇が日本を統治する根拠を説明する必要が生じました。そのため、神話や伝承、過去の出来事をまとめた『古事記』や、中国の歴史書にならって編年体で記された『日本書紀』が作成されました。なお、地方の地理などを記したものは『風土記』、和歌を集めたものは『万葉集』です。
問8	答え 1 古事記	石見神楽などの各地の伝統芸能や祭礼は、この歴史書に記された神話をモチーフにしているものが多くあります。この書物は現存する日本最古の歴史書であり、当時の人々の世界観や神話を知る上で非常に重要な資料となっています。
問9	答え 2 都での労役の代わりに布を納め、主に都での役人の食糧や経費に充てられた負担。	庸は、成人男子が都へ行って年間10日間働く代わりに、布（2丈6尺）を納める制度です。この庸や、特産物を納める「調」は、負担者が自力で都まで運ばなければならず、農民にとって非常に重い負担となりました。選択肢にある稲を納めるものは「租」、地方での労役は「雑徭」に該当します。
問10	答え 4 天皇は、全国に国分寺・国分尼寺を建立することを命じ、東大寺をその中心に据えた。	聖武天皇は、仏教の力で国を治めるため、全国各地に国分寺と国分尼寺を設置しました。東大寺はその総国分寺として位置づけられています。選択肢にある運慶や快慶は鎌倉時代、紫式部は平安時代の人物であり、時代が異なります。また、大仏造立にあたっては、民衆に影響力のあった僧の行基が協力し、資金や人手を集める上で大きな役割を果たしました。
問11	答え 3 古事記	天武天皇の命により、稗田阿礼が暗誦した内容を太安万侶が筆録する形で編纂されました。日本の成り立ちや神々の物語を記した、日本で最も古い歴史書とされています。
問12	答え 1 遣唐使が唐の都である長安の国際的な文化や、西アジア、インドなどから伝わった文物を日本へ持ち帰ったから。	当時の唐の都・長安は、世界各地から人々が集まる国際都市であった。遣唐使はそこから最新の仏教經典、芸術作品、工芸品を持ち帰ったため、日本の貴族文化の中に唐だけでなく遠く西アジアやインドの要素が混ざり合うこととなった。これに対し、遣唐使の廃止後に発達した国風文化は、それらを日本の風土に合わせて消化した日本独自の文化であるという違いがある。
問13	答え 2 唐の影響を強く受けた、国際色豊かな文化	奈良時代は遣唐使の派遣が盛んであり、当時の国際都市であった唐の長安から多くの文物がもたらされました。シルクロードを経由して西アジアや中央アジアの意匠も伝わったため、正倉院の宝物に見られるように、天平文化は当時の「世界文化」が凝縮されたような国際的な性格を持っています。